



1 講座開催中、子どもたちは本学学生ボランティアと遊びました(2018)

<2017年度の取り組み>

- 2、3 講座が行われている間、学生たちは子どもたちと手遊びなどでふれあいました
- 4 本学教員による講座の様子
- 5 子育て中の母親をはじめ、祖父母、子育て支援施設の職員などの参加がありました

<2018年度の取り組み>

- 6 本学教員による講座の様子
- 7 ふれあい遊びの実践中



成果と課題

学生たちが本講座を行って特に難しいと感じたのは、「地域のニーズを把握すること」だという。

「ゼミでは、理論や事例を学び、張り切って現地に行きましたが、保護者や地域の方と世間話などをして、信頼関係を築くことが地域活動では重要だと学んだ」と学生たちは話している。

「教室での学び」と「地域社会への貢献活動」ともに行うことで、授業で学んだ知識を深め、地域社会の問題を発見し、解決する能力やコミュニケーション力、リーダーシップを身に付けていくことができる。学生はこのような過程を通じて自らの学びを深め、将来のキャリアを模索していくのであろう。

参加した学生の一人は次のように話していた。「親子で楽しい時間を過ごしていただいたが、これを継続していくことが重要であると思いました。活動をしっかりと1年生に伝え、自分自身は本活動で明確になった将来像の保育士としてさらに勉強を積んでいきます。まずは、自分の地元で保育士として経験を積み、将来的には発展途上国などで保育士として、子どもの支援に携わりたいと考えています」。

イ. 第2回

〔開催日〕平成30年12月11日(火)
 〔場所〕南房総市立富浦子ども園
 〔テーマ〕「子どものからだのトラブルの理解 ～感染症とアレルギー疾患～」
 〔担当講師〕聖徳大学短期大学部保育科教授 宮本茂樹
 宮本教授は、小児科医としての専門性を活かした、乳幼児期の感染症とアレルギー疾患についての講義を行った。

ウ. 第3回

〔開催日〕平成30年12月11日(火)
 〔場所〕南房総市立富浦子ども園
 〔テーマ〕「子どもの心のトラブルの理解」
 〔担当講師〕聖徳大学短期大学部保育科教授 村田カズ
 村田教授は、乳幼児検診および経過観察の心理相談員としての専門性を活かした講義を行った。講義の最後は、「しつけは、はずれないように曲がらないように」「叱るときは部分を！ほめる時は全体を！」「否定文から肯定文に！」「ことばのキャッチボールはタイミングが大事！」と保育者へメッセージを送った。

2019年度は、子育てサポーター講座の開催(学生がボランティアとして参加)を予定していたが、会場等の関係で中止となった。

*表彰・マスコミ掲載など

・特になし

実施者

- <教員・参加者> 聖徳大学短期大学部 保育科 教員、学生
- <協働パートナー> 【行政】南房総市教育委員会子ども教育課 南房総市子育て支援センターほのぼの 南房総市立富浦子ども園

背景と目的

本プロジェクトは南房総市での多世代との交流の機会の創出と、地域ニーズに対する大学、学生シーズによる地域課題解決を目的として計画・実施した。

聖徳大学短期大学部保育科は「松戸子育てカレッジ」を2015年に設立して、地(知)の拠点大学として、専門知識を活かして、子育て中の親とその子どもを応援している。「松戸子育てカレッジ」の取り組みの「子育てサポーター講座(祖父母世代対象)」、「おやこで“ゆるりん”講座(保護者向け)」を“南房総版”として開催した。

本取組は、学生主体の地域貢献活動を行う「社会貢献の理論と実践」「地域貢献活動の実践」の一部である。教室での学び(ラーニング)と地域社会への貢献活動(サービス)をセットで行い、授業で学んだ知識を学外での体験に生かして課題解決を目指すサービスラーニングを本学保育科では推進している。本プロジェクトに参加した学生は、1年次秋学期から地域貢献科目でサービスラーニングを行うゼミ(10名程度)に所属して子育て支援について学んできた。

授業では、子育て支援に関する各地域の取り組みについて調べ、その概要をまとめて発表し、その後、討論も行い、概念や理論を理解する。「子育て支援に関心がある学生がゼミには集まっているが、その意見を聞くと、自分とは異なる価値観や考え方があることに気づきました」とゼミ学生は話している。ゼミでは、週1回の授業に加え、自分たちの関心のある地域貢献活動をボランティアとして行っている。毎週の授業後もゼミのメンバーが集まり、事前に南房総市などの子育て支援の現況について調べ学習を行った。活動目標として、「親子でゆったりとした時間を過ごすためのふれあい遊び」を取り上げ、親子で触れ合うことの楽しさを重視した活動に取り組んだ。

実施内容

(1) 2017年度

〔開催日〕2018年2月16日(金)
 〔場所〕南房総市子育て支援センターほのぼの
 〔テーマ〕「気になる行動の理解と対応」
 〔担当講師〕聖徳大学短期大学部保育科准教授 大熊光穂
 聖徳大学短期大学部保育科2年生6名もボランティアとして参加し、講座が行われている間、子どもたちと手遊びなどでふれあった。子育て中の母親をはじめ、祖父母、子育て支援施設の職員など、28名の市民が参加した。

(2) 2018年度

ア. 第1回

〔開催日〕2018年9月10日(月)
 〔場所〕南房総市子育て支援センターほのぼの
 〔テーマ〕「おうちで楽しもう！ーカンタンふれあい遊び」
 〔担当講師〕聖徳大学短期大学部保育科教授 阿部真美子
 聖徳大学短期大学部保育科兼任講師 直井夕岐子
 〔対象〕子育て中の保護者や祖父母や子育て支援員
 阿部教授は、家庭において親子で遊ぶ大切さについて講義した。直井講師は、「家庭で子どもとどう遊んでいいかわからない」という保護者や祖父母の方におすすめのふれあい遊びを紹介した。当日は、子育て中の父母や祖父母、子育て支援施設職員などの市民が参加した。また、本学保育科1年生6名がボランティアとして参加し、講義編の講座が行われている間、子どもたちと絵本の読み聞かせや手遊びなどで触れ合った。実技編の講座では、直井講師と一緒に手本を示しながら、カンタンふれあい遊びを行った。